

用語解説

あ行

愛知目標

2010年に愛知県名古屋市で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」において、2020年までの行動目標として採択されたもの。愛知県で決議されたため「愛知目標」と呼ばれています。

遺伝的多様性

同一種において、集団や個体を示す遺伝的な違い。種のなかで、個体ごとの遺伝的な違いが多くみられることを「遺伝的に多様である」という。

か行

外来種

導入(意図的・非意図的を問わず人為的に、過去あるいは現在の自然分布域外へ移動させること。導入の時期は問わない。)によりその自然分布域(その生物が本来有する能力で移動できる範囲により定まる地域)の外に生育又は生息する生物種(分類学的に異なる集団とされる、亜種、変種を含む)。

外来生物

一般的には、「外来種」とほぼ同義で用いられている事が多い。外来生物法では、「海外から我が国に導入されることによりその本来の生息地又は生育地の外に存することとなる生物」と定義されている「法律用語」。つまり、国外から日本に導入されるもののみを対象としており、いわゆる国内由来の外来種は含まない。

学校ビオトープ

学校や幼稚園・保育所の敷地など、子どもたちにとって最も身近な場所にあるビオトープ。生きものとの触れ合いや観察等の自然体験を通じて、生命の不思議や自然環境の大切さを学ぶことができる。生きものの種

ごとに異なる生活や環境の学習、それらを考慮した維持管理やその発表等の活動を通じて、地域の歴史や自然環境等の総合的な学習の場、保護者や地域の方々とのコミュニケーションの場など様々な活用が期待される。

環境学習・教育

持続可能な社会の構築を目指して、家庭、学校、職場、地域その他のあらゆる場において、環境と社会、経済及び文化とのつながり、その他環境の保全についての理解を深めるために行われる環境の保全に関する教育及び学習のこと。

環境省レッドリスト

日本の絶滅のおそれのある野生生物種のリスト。日本に生息又は生育する野生生物について、生物学的観点から個々の種の絶滅の危険度を評価し、絶滅のおそれのある種を選定してリストにまとめたもの。

環境マネジメントシステム

事業組織が環境負荷低減を行うための管理の仕組み。組織のトップが方針を定め、個々の部門が計画(Plan)をたてて実行(Do)し、点検評価(Check)、見直し(Action)を行う仕組みで、このPDCAサイクルを繰り返し行うことで継続的な改善を図ることができる。

協働

全ての団体・個人が共通の目標に向けて相互に尊重し合い、連携を図りながら、それぞれの立場に期待される役割をそれぞれが可能な限り果たしていくこと。

固有(亜)種

分布が特定の地域に限定される種もしくは亜種。この場合、「特定の地域」には、国レベル、都道府県レベル、地域レベルなどさまざまなとらえ方がある。例えば、ヤンバルクイナは、日本の固有種であるだけでなく、沖縄県沖縄本島、やんばる地域の固有種である。

国連環境開発会議(地球サミット)

1992年に開催された環境と開発に関する国連会議。地球温暖化、酸性雨等顕在化する地球環境問題を人類共通の課題と位置づけ、「持続可能な開発」という理念の下に環境と開発の両立を目指して開催された。

さ行

埼玉県レッドデータブック

絶滅のおそれのある野生生物の種をリストアップし、その生息・生育状況を解説した資料集。埼玉県では動物編を平成8年に、植物編を平成10年に発行し、以降動物編及び植物編を2回改訂している。

在来種

ある地域の環境に適応し、長年生育・生息し続けている生物。外来種の対語として用いられる。

里地里山

農地、ため池、樹林地、草原など多様な自然環境を有する地域のこと。相対的に自然性の高い奥山自然地域と人間活動が集中する都市地域との中間に位置し、国土の約4割を占めるといわれている。

自然再生

過去に損なわれた自然環境を取り戻すことを目的として、関係行政機関、関係地方公共団体、地域住民、NPO、専門家等の地域の多様な主体が参加して、自然環境を保全し、再生し、創出し、またはその状態を維持管理すること。

侵略的外来種

外来種のうち、わが国の生態系、人の生命・身体、農林水産業等への被害を及ぼす又は及ぼすおそれがあるなど、特に侵略性が高く、自然状態では生じ得なかった影響をもたらすもの。

生活史

生物個体の一生の特徴を出生から成長、死亡、繁殖の時期とやり方に注目し、外観したもの。[岩波広辞苑、行動生物学辞典]

生息域外保全

絶滅のおそれのある野生動植物種を、その自然の生息域外において、人間の管理下で保存すること。

生息域内保全

生態系及び自然の生息地を保全し、存続可能な種の個体群を自然の生息環境において維持し、回復すること。

生態系

ある地域にすむすべての生物とその地域内の非生物的環境をひとまとめにし、主として物質循環やエネルギーに注目して、機能系として捉えた系。生産者、消費者、分解者、非生物的環境で構成される。エコシステム。

生態系ネットワーク

野生生物が生息・生育する様々な空間(森林、農地、都市内緑地・水辺、河川、海、湿地・湿原・干潟・藻場・サンゴ礁等)がつながる生態系のネットワークのこととして使われる言葉。エコロジカルネットワークと呼ばれることもある。

生態系サービス

暮らしを支える食料や水の供給、気候の安定など、多様な生き物が関わり合う生態系から得られる恵みのこと。

生物多様性

生きものの豊かな個性とつながりのこと。生物多様性条約では、「すべての生物の間の変異性を指すものとし、種内の多様性、種間の多様性および生態系の多様性を含む」と定義されている。

生物多様性国家戦略

生物多様性条約と生物多様性基本法に基づく、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する国の基本的な計画。最新の計画は COP10 で採択された愛知目標の達成と東日本大震災を踏まえた今後の自然共生社会のあり方を示した「生物多様性国家戦略 2012-2020」である。

生物多様性基本法

生物多様性の保全及び持続可能な利用の基本原則を定めた法律。政府による生物多様性国家戦略の策定や地方自治体の生物多様性地域戦略の努力義務を定めている。

生物多様性条約

「生物の多様性に関する条約」の略。世界全体で生物多様性を保全していくために 1992 年 5 月に採択された国際条約で、①生物多様性の保全、②生物多様性の構成要素の持続可能な利用、③遺伝資源の利用から生ずる利益の公正で衡平な配分の 3 つを目的としている。

絶滅危惧種

絶滅のおそれのある野生動植物種のこと。我が国では、環境省レッドリストにおいて、次の3つのカテゴリー（分類群によっては、IA 類と IB 類をまとめて絶滅危惧 I 類としている）に掲載されている種を絶滅危惧種としている。

【絶滅危惧 IA 類】ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。

【絶滅危惧 IB 類】IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。

【絶滅危惧 II 類】絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられる種。

た行

地域性種苗

地域性系統をベースに生産された種苗。

地球温暖化

物の燃焼に伴ってできる二酸化炭素などは、地球から宇宙に熱を逃がす赤外線を吸収して地球の温度を高く保つ効果があるため、温室効果ガスと呼ばれる。このような温室効果ガスの大気中の濃度が人間の活動の拡大により高くなることで地表面の気温が上昇し、地球規模での気温上昇（温暖化）が進むこと。

地産地消

地域で生産された農産物を、地域で消費しようとする取組。食料自給率の向上に加え、直売所や加工の取組などを通じて農業の 6 次産業化につながるもの。

締約国会議(COP)

COP とは、「Conference of the Parties」の略で締約国会議を意味する。生物多様性条約の他に、気候変動枠組条約の COP も開催されている。名古屋市で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）は、生物多様性に関する新たな世界目標である「愛知目標」や遺伝資源に関する「名古屋議定書」が採択されるなど、大きな成果を残した歴史的な会議となった。

特定外来生物

生態系等に係る被害を及ぼし、又は及ぼすおそれがあるものとして、外来生物法によって規定された外来生物。生きているものに限られ、卵、種子、器官などを含む。同法で規定する「外来生物」は、海外からわが国に導入されることによりその本来の生息地又は生育地の外に存することとなる生物を指す。

な行

二次林

自然林が伐採や焼失などによって破壊された後に、自然または人為的に再生された樹林のこと。

は行

ビオトープ

ギリシャ語で「生命」を意味する「bios」と「場所」を意味する「topos」の合成語で、本来その地域に住む様々な野生の生きものが生育・生息することができる空間のことを指す。

ヒートアイランド現象

空調設備による人工排熱、コンクリートの建物による蓄熱などにより、都市の中心部の気温が郊外に比べて島状に高くなる現象。建物や自動車からの人工排熱の低減、地表面や屋上の緑化、緑地や水面からの風の活用、ライフスタイルの改善などの対策が効果的とされている。

保存樹林

市内に点在する屋敷林等の貴重な緑の保全のため、要綱に基づき市が指定した樹林や樹木のこと。指定した樹林等の所有者へ奨励金を交付している。

ま行

埋土種子

発芽力を保持したまま、土の中で休眠状態にある種子。

緑のカーテン

つる性の植物を窓の外に這わせることで夏の日差しを和らげ、室温の上昇を抑える自然のカーテン。冷房によるエネルギーの使用量を減らす省エネルギーの効果や、コンクリートや建物に熱を蓄積させないヒートアイランド現象緩和の効果が期待される。

ら行

レッドリスト

日本に生息又は生育する野生生物について、専門家で構成される検討会が、生物学的観点から個々の種の絶滅の危険度を科学的・客観的に評価し、その結果をリストにまとめたもの。概ね5年ごとに公表を行っており、現在の最新は平成24年・25年に公表した第4次レッドリスト。

その他

IUCNの侵略的外来種リストワースト100

正式名称は「100 of the World's Worst Invasive Alien Species」という。国際自然保護連合(IUCN)の種の保全委員会侵略的外来種専門家グループがとりまとめた、自然分布域以外に導入された生物種の中で、特に生態系等への影響が大きいもののリストである。